第 2018-20 号

恵みと真理のニュース

2018 年 5 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

祈りに応答され苦難が変えて栄光になり、艱難が変えて福になるようにしてくださった神様に感謝と賛美を捧げます。

私は幼いごろ家が貧しくてあばら屋のような家で暮らしました。よく食べられなくて貧血によって部屋で横になっていると天井がぐるぐると回るように見える時が多かったです。外から風の音がするとすぐ家が崩れるのではないか心配する時も多かったです。
父親はお寺に行き偶像崇拝をしました。棺のふたを拾って台所の扉を作りました。そんなあばら家で住んでいるにも父は毎日のように村の人々と花札遊びをして楽しんでお酒を飲みました。貧しい家庭なのでよくお腹がすいた私はそんな父がまったく理解できませんでした。その反面、母は教会に熱心に通いました。字は知りませんが 、礼拝を捧げる時に誰よりも大きい声で賛美して祈りました。私が5、6歳の頃、母が私を連れて教会に行って行事に参席して、夜礼拝に捧げるなら私は賛美歌の声が子守歌と思い教会の奥まった所で寝たりしました。
小学校を卒業した後、父が亡くなって私は親戚の手に導かれて父親の故郷に行きました。父親が住んでいた昔の家を見て衝撃を受けました。崩れそうな家だったからです。その時、私はこれから結婚する時、経済的に余裕がある人、成功した人と結婚すると念を押しました。
余所の家で生活しましたが、家主の子供が制服を着て学校に行く姿がとてもうらやましかったです。それで私も続けて勉強をしたくて神様に切に祈りました。そうするうちに神様の摂理で当時我が国で一番大きい電線会社で家庭が貧しい青少年達を先発して夜間学校に通わせるという公告を見て志願して中学校の卒業をする事が出来ました。就職をするためソウルに来て高校に通うように志願してくれる会社を探してそこで働きながら勉強しました。体がとても疲れましたが神様が下さる慰めと力で耐えて希望の中で熱心に勉強をしながら仕事をしました。仕事と勉強を併行しながら導いてくださる神様の大きい愛と恵みを深く悟るようになりました。家主が偶像崇拝をするのが気の毒で機会がある時、福音を伝えました。青年になって結婚しました。どころが、旦那がイエス様を信じない人だから、結婚生活が楽しくなかったです。他のさまざまな苦難はどうか耐えて勝つことが出来ましたが、信仰にあっては妥協をすることが出来なかったので苦痛が長続きました。一日で何回も離婚を考えました。しかし、神様を信じる聖徒であり幼い子供たちを考えながら忍耐する事が出来ました。
一番上の子が生まれてばかり三日ぶりに随時驚起をしましたが、効く薬がなかったです。病院で子供が3ヶ月しか生きられないと晴天の霹靂な話を聞きました。その時、アンヤンで暮らしながらアンヤン聖殿に通っていました。私が今まで熱心に教会に通い礼拝中心で生活するのを見てきた全ての教区の伝道士と区域長の職分を受けて奉仕するのを勧めました。状況は大変で私の信仰も弱かったですが、従順して職分を受けました。職分を受けて当会長の牧師から按手祈りも受けました。牧師は私のよく職分を担えるように祈ってくださり、赤ちゃんのためにも切に祈ってくださいました。そして、驚く事が起きました。赤ちゃんが病気が治ったのです。医師から3ヶ月超えないとした子を神様が治療してくださいました。ハレルヤ！
問題なく育った一番上の子が6歳とき幼稚園でプルで遊びに行ってある子の過ちで深い水に落ちてしまい5分ぐらい水に沈んでしまった大きい事故がありました。次の日、子供の手と足が麻痺された症状が現れ病院に入院させました。私は恨まなく神様がすぐ治してくださると思い信じ祈りました。他のところに気を使うゆどりがない中でも区域長の職分も疎かにしなくて最善を尽くしました。時間が経つと子供の麻痺の症状がよくなり始めて健康を回復しました。一番目の子はイエス様が自分を助けてくださったと言い、イエス様を真に信じて信仰の家庭でよく暮らしています。 ある牧場で借りて暮らすときに、家主が自分の家は仏教を信じる家庭なので自分の家で住む間は教会には行かないでほしいとどんでもない話をしました。私は神様が下さる勇気と胆力でそれは出来ませんと、むしろ家主を伝道しました。教会に行くたびにわざと大きい声で“教会に行って来ます。”としました。そのように私が決断たる態度を見せると女家主も仕方ないと迫害をやめました。
6年前、末の兄が肺癌の末期で死の直前でした。多くの親戚が兄の最後の姿を見るため病院に集まった時、私は教区伝道士に訪問を要請しました。病院にお見舞いに来た伝道士が兄に“健康が回復されると教会に来れますよね。すると兄は“眼をつぶしながらそうすると答えました。”伝道士が福音を伝えて切に祈ってくださいました。すると、兄がすぐ病院で退院する驚くな神様の奇跡が起こりました。その後、健康になった兄は神様から多くの服を受けて今、熱心に信仰生活をしています。私は田園聖殿で恵みと真理教会を使えながら、畜産農場を運営しています。何年前、口蹄疫が全国で拡散された時、私たちの牧場の近くの農場まで多くの被害を受けました。その時、教会で多くの方々が私のため祈ってくださり、神様が守ってくださって私の牧師は無事でした。
　私たちが我が教会で属して信仰生活したのが30年が超えました。今まで良い事も多くてさまざまな苦難もありました。苦難が来ても黙々神様に祈りながら、熱心に福音を伝えて奉仕しながら主が預かった職分を担えるとき神様が助けてくださり、神様に栄光を捧げるようにしてくださいました。癒しの恵みを与えてくださり、財物の福も与え、多様な救いの恵みを経験するようにしてくださいました。20年前畜産業のビジョンを与えて、牧場を新たに予備してくださった神様が子の牧場に福の基盤になるようにしてくださいました。ここで子供たちを大学まで育って、教会と主の事に献身する事が出来ました。神様がまた、どんな恵みを与えてくださるか神様に対する感謝と期待が充満です。
神様の限りない愛を全部記録できない事を告白します。神様が与えてくださったこの人生を任された職分に忠誠をして主の体になる教会をもっと愛し生きることを強く決心します。
“ わたしは、神に近くあることを幸いとし／主なる神に避けどころを置く。わたしは御業をことごとく語り伝えよう。”
（詩篇　73：28）

［信仰コラム］

私はあなたの涙を見た

”...『あなたの父ダビデの神、主はこう仰せられます、「わたしはあなたの祈を聞いた。あなたの涙を見た。見よ、わたしはあなたのよわいを十五年増そう。...”（イザヤ書38:2～6）

涙を惰弱の象徴のように扱うのは誤りです。聖書をみると聖君ダビデ、予言者エレミヤ、使徒パウロは涙が多い人でした。だけではなくイエス様が涙を流された場面が聖書に数回記録されています。涙は信仰生活の徳目のなかで一つです。実際に涙が多い聖徒の心霊に恵みが臨んで、涙が多い聖徒が集まる教会は復興します。神様が私達の涙を見られ、哀れんでくださり助けの手を伸ばしてくださるという事実が聖書に啓示されています。神様が見られる涙、神様に向いて訴える力を持った涙について調べてみましょう。
第一は、悔い改めによって流す涙です。
人に最も大きい幸運の中で一つは自分が罪人であり、人間の方途では罪を解決する道がないということを認めるのです。そうして福音を聞いてイエスキリストを自分の救い主として信じて迎接するのです。これを救いを得る悔い改めだとします。このような悔い改めをする時に流す涙は誠に価値があって有益な涙です。私達の罪を贖われたイエスキリストを迎接することと関連した悔い改めの涙だけではなく聖徒達は一生を生きながら神様の思い通りに行われず、神様を喜ばせなかったことによる悔い改めの涙を流します。このようなことによって哀痛して悔い改めの涙を流すと神様の哀れみを被ります。
第二は、病苦と艱難を受ける時、神様に求めながら流す涙です。
神様は涙を流しながら叫ぶお祈りに深い関心を持ってくださいます。このような涙は懇切な心から始まるからです。ヒゼキヤ王は病んで死ぬようになると顔を壁に向けて神様の求めて痛哭しました。神様が”わたしはあなたの祈を聞いた。あなたの涙を見た。”と言われました。ヒゼキヤ王が泣きながらお祈りした結果で彼が求めたこと以上の応答を受けました。神様に向いて低くなって謙遜な心になり涙を流す者に救いが臨んで癒しが臨みます。
第三は、福音を述べ伝えて信仰が弱い者を手伝いながら流す涙があります。
イエスキリストを信じる人は逼迫を受けることのため悲しくて泣きません。却って、逼迫する人を見る時に気の毒で涙を流します。教会の指導者は信仰が弱い者達の信仰を固くするために励みながら涙を流します。神様がこのような涙を見られます。激しい競争と家庭教育の不在はますます人情が廃れ果てて、厳しい社会を作っています。隣の人に対する哀れみの涙が涸れた社会ほど厳しい所はありません。他の人をイエス様に導くためにそして、惰弱な信者の面倒を見るために励んでお祈りしながら流す涙は誠に尊い涙です。神様はこのような聖徒の涙を見られます。
第四は、神様の愛と恵みに感激して流す涙があります。イエスキリストを信じると涙がなかった人も涙が多くなります。このような涙は肉体的な刺激や精神的な衝撃から出るのではなく、神様の恵みと愛に彼の魂が喜んで感動し涙が流れるようになるのです。人が流す涙の中で何よりも尊い涙は主イエスキリストの中に現れた神様の愛に感動して流す涙です。この世で卑しく扱うある女性が流した涙に関する美しくて感動的な話しがルカによる福音書 7 章に記録されています。イエス様はその人の身分がどうであれ、罪の許しを受けた恵みに感激して涙を流しながら献身する人によって光栄を受けられます。
私達が神様に感謝して感謝の涙が涸れない時、私達の心霊の中に救いの確証と平安がより溢れます。皆さんは”わたしはあなたの求めを聞いた。あなたの涙を見た。””わたしはあなたの感謝を聞いた。あなたの涙を見た。”と言われる主の御言葉を聞く聖徒になるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

責められる聖霊様

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人が持つことができる知識と必ず持たなければならない知識があります。その中で優先順位は、神についての知識です。人生の最大の不幸であり、悲劇は神を知らないまま生きて死ぬことです。その理由は、神を知ることが、救い得ることに関連されるからです。救いを非常に簡単で定義すると、滅びないで、永遠の命を得ることです。誰でも神の正しい知識を持つようになれば、神を信じて愛して仕えます。その後、神の正しい知識を得る道は何ですか？神の言葉である聖書を通して得ることができます
聖書は、聖父　聖子　聖霊　三位が一体である神を明らかにしています。聖徒たちは父なる神とイエス・キリストについてだけでなく、聖霊にもよく知らなければならないです。聖徒たちは、聖霊によって霊的な生命を持って生きていくからです。聖霊が神から選ばれた者たちのためになさることは非常に多様であります。その中に聖霊が未信者を責められることについて説明します。イエスが言うのを聖霊が来られば**それがきたら，　罪と　義とさばきとについて，世の　人の　目を　開くであろう．（ヨハネによる福音書　福音書 16：8）**しました。「責める」という言葉は、「明らかに明るみに出す」「悟る」「直す」「叱る」という様々な意味で使用されます
この世を責められるとしました。この世というのはサタンの支配を受けている、神の怒りの下にある人々を指します。イエスは続いて言うのを **″　罪についてと　言ったのは，　彼らがわたしを　信じないからである．義についてと言ったのは，　わたしが　父のみもとに　行き，あなたがたは，　もはやわたしを　見なくなるからである．さばきについてと　言ったのは，この　世の　君がさばかれるからである．″（ヨハネによる福音書　福音書 16：9～11）**しました。未信者は罪と、審判に対して正しい理解をしていないです。聖霊は、人々に罪が何なのか、義は何なのか、審判が何なのかを明らかに出して知ていただき、誤解していると考えを責めて正しにしてくださいます。

第一は、「罪についてと　言ったのは，彼らがわたしを　信じないからである」しました。

人間にとって最も深刻な罪はイエス・キリストを信じていない罪です。なぜなら、イエスが人間のすべての罪を担当して贖いしたからです。したがって、誰でもイエス・キリストを信じるだけで、すべての罪の赦しを受けることができます。人が滅び受ける理由は、イエス・キリストを信じないからです。人間が自らの罪の問題を解決する方途は全くありません。しかし、あわれみが豊かな神は、私たちの罪をあがないするためにひとり子イエス様をこの世に送られました。罪のないイエス様が私たちの罪をあがないしようと罪の供え物になりました。十字架につけられ、苦難受けました。尊い血を流して死なれました。そしたので誰でもイエス・キリストを信じるだけで、罪の赦して義とされ、神の子になるようにしていただきます。しかし、イエス・キリストを信じなければ、誰も審判を受けて滅亡されます。この滅亡というのは死んでなくなるのではなく、永遠に地獄の刑罰に処するようになることを言います。滅亡に至る罪が何であるか、このように明らかです。イエス・キリストを信じないことが滅亡に至る罪です。人々は、これらの事実について知りません。聞かせてあげても気付かずに、むしろ嘲笑します。しかし、神の選ばれた者たちは、聖霊が責めると、イエス・キリストを信じていないことが滅亡に至る罪ということを覚って、悔い改めになります。イエス・キリストを信じるようになります。自分の救い主として受け入れます。主に仕えるようになります
自ら正しいと思って高慢して福音を排斥する人々に聖霊がその心に罪に対して責めてくださるのを祈らなければならないです。自分の善い行いや宗教行為で罪を解決しようと努力しながら福音を蔑視する者たちに聖霊がその心に罪に対して責めて下さるように祈らなければならないです。イエス・キリストを信じていないことが滅亡につながる罪という事実を悟るように責めて下さるように求めてください

第二は、　義についてと　言ったのは，わたしが　父のみもとに　行き，　あなたがたは，　もはやわたしを　見なくなるからである″しました。

人間に死が近づいてきたのは、アダムの罪によるものです。主なる神は、神の形状と形で人を造らその人をエデンの園におられそれを治め守られました。その人に命じるのをこの園の木からは任意で食べるが善悪を知る木からは食べてはいけない　あなたが食べると、きっと死ぬであろうとしました。悪魔の誘惑に渡ったアダムとエバは、善悪の知る木の実を取って食べました。その木の実を取って食べると、「必ず死ぬ」と言われた神の言葉のとおり、人間は霊的な死と肉体も徐々に死に至るようになりました
イエスが自分の犯した罪のゆえに神の罰を受けて死亡した場合は、その遺体が墓に葬られたまま存在するしかありません。イエス様が私たちの罪を完全に贖いしていないされたといえば、墓にあるしかありません。しかし、イエス様は葬られてから三日目に死の力から復活しました。イエスの復活は、予期しないの出来事ではありません。聖書に予言されており、イエス自身が何度も予告されました。予言されたまま再び生きかえられました。これは、イエスが罪のない方であるという事実と、私たちの罪を完全に贖いしたという事実をすべて確証することです
イエス・キリストが与えてくださったのは、人間関係での義とは異なります。イエス・キリストによるのは罪が全くない状態であり、神の前に進むことができる資格です。これらの真理は、人間が自ら悟ることができません。福音を聞く者に聖霊が責めてくださるのが必要です。福音を伝えるたびに聞く者に聖霊が義が何なのかを明らかに出して知る、義の間違った考えを責めて正しく知るのを求めてください。

第三は、「さばきについてと　言ったのは，　この　世の　君がさばかれるからである」しました。

聖霊が審判に対しても、人間の間違った考えを責められ正しいにしてくださいます。審判は、「この世の王」と関連します。「この世の王」が誰を指すのかを説明してくれる言葉があります。**エペソ人への手紙 6 章 12 節に「わたしたちの　戦いは，　血肉に　対するものではなく，もろもろの　支配と，　權威と，　やみの　世の主權者，　また　天上にいる　悪の　靈に　対する戦いである」**しました。「この世の王」の性格と活動の舞台と組織を物語っています。「支配と権威とが暗やみの世界の支配者たちと、天にいる悪の霊」という表現は、邪悪な霊的存在を意味します
イエスが変化山の上から、ペテロとヤコブとヨハネに、このような言われました。**「　今はこの　世がさばかれる　時である．　今こそこの世の　君は　追い　出されるであろう．　そして，わたしがこの　地から　上げられる　時には，すべての　人をわたしのところに　引きよせるであろう　」．**　イエスが十字架に高くかかって死ぬことを予告したのです。そして、イエスの死は、この世の王として君臨しているサタンを審判することを語られたのです。罪と死によってこの世に君臨しているサタンにイエスの死は決定打でした。イエスの復活に罪と死の権威がなくなったからです。ですから、イエス・キリストを信じる人は、罪に定めを受けずに、刑罰の審きを受けないようになりました
これらの真理を世の人々は知りません。サタンがどのような存在なのか、何をするのか、どのようにして審判を受けたのかについては全く無知です。サタンの存在を否定する人がいます。サタンの存在は認めるがむしろ身近に思う人がいます。聖霊は人生に、この世の王として君臨しているサタンがどのようにして、審判を受け、その最終的にはどうなるのかを明らかに出して知るしていただき、間違った考えを責められ正しくしてくださいます。私たちは、未信者が悪魔に対してそしてサタンにする審判に対して実現されるように、聖霊が責めるのを求めてください

私たちがイエス・キリストを信じるようになったのは、自分の知恵によったものではありません。聖霊が罪に対し、義に対し、審判に対して、私たちを責めていただいたゆえです。この驚くべきな祝福の知識を覚って、信仰を持つようにしてくださった人が聖霊さまです。未信者が罪に対し、義に対し、審判に対して正しく覚って悔い改めて、イエス・キリストを信じるようなるには聖霊の責めを受ければならないです。聖霊は福音が伝えられるところで責めることをします。聖徒の皆さんは世を責める聖霊様を頼って福音を伝えてをください。そしてすべての人が聖霊様の責められて、イエス・キリストを信じて義とされ、サタンの権威で置かれている、私は姿を見る楽しさを享受なりますように願います。